

同シク十二年三月末卒業スベキ圖書師範科生徒二十人ヲシテ實地
 授業法ノ調査研究ノタメ本年度五月八日ヨリ同月十九日ニ至ル十
 二日間教授一人助教一人交互ニ之ヲ引率シ愛知、三重、奈良、
 大阪、京都ノ二府三縣下ニ出張シ調査研究ヲ為サシメタリ
 本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ關シテ申報スベキ事
 項ナシ

將來施設上重要ト認ムル件

在外研究員ノ増員并ニ教官ノ外國派遣ノ件〔大正十年報告と〕
 〔同文につき省略。〕

豫備科教室新築ノ件 〔同右。〕

彫刻科教室増築ノ件 〔同右。〕

女子部新設ノ件 〔同右。〕

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依囑ヲ受ケ製作ニ従事シタル
 モノ、中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依囑製作一覽

品名	數量	受託年度	本年度竣工	依託者
金七寶製表文笥臺	壹個	大正十年度	竣工	東京市役所
付本邦名欄〔勝〕繪	壹個	同	同	東京府
畫帖時繪箱入	壹個	同	同	同
奉迎文並ニ鏤細時	壹個	同	同	同
繪内箱	四枚	同	同	宮内大臣官房 用度課
コップ及菓子器圖	四枚	同	同	同
奉迎文寫眞	四拾貳枚	同	同	東京府
捧呈畫帖復製	冊參百拾五	同	同	同
記念畫帖復製	冊壹百貳拾	同	同	農商務省
畜産共進會賞牌	壹百貳拾	同	同	同
御紋付銀製洋盃	壹個	同	同	宮内大臣官房 用度課

賞	品名	數量	受託年度	本年度竣工	依託者
(小型三等賞銅牌)	銀製花瓶	九個	同	同	農商務省
	大阪圖書館ニツテ	壹對	同	同	八幡市役所
	石膏製標本シーザ	貳個	同	同	本莊熊次郎
	胸像外一	貳個	同	同	白瀧幾之助
	石膏製標本	參拾個	同	同	東京高等工藝
	同	貳個	同	同	小林萬吾
	置時計	壹個	同	同	宮内大臣官房 用度課
	油繪肖像額	壹面	同	同	河原塚重忠
	同上額綠	壹個	同	同	同上
	等身胸像	壹個	同	同	同上
	エンソン翁懸燈臺	壹基	同	同	帝國發明協會
	石膏標本モリエル	壹個	同	同	岡田三郎助
	胸像	壹個	同	同	愛知縣龜崎尋
	石膏標本	貳個	同	同	常小學校
	木彫申置物	壹個	同	同	宮内大臣官房
	石膏標本	壹個	同	同	用度課
	石膏標本	壹個	同	同	石川縣立工業
	石膏標本	壹個	同	同	學校
	平和博覽會賞牌サ	壹萬貳	同	同	東京府
	ツク	拾五百五	同	同	同

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近事(二〇一七)卷男 T・十一年・三・七日

○職員辭令

大正十一年一月九日

京都府へ出張ヲ命ズ 但往復共五日間ノ事

書記 北浦 大介

同 十日

助教授 中村 勝治郎
右大正十年一月十一日休職ノ處本日ヲ以テ休職期間滿了セリ

同 十二日

校長 正木 直彦
日佛美術展覽會出品事務ニ付本日ヨリ十四日迄京都市へ出張セラ
ル

教授 島田 佳矣
依囑製作事業ニ關シ名古屋市へ出張ヲ命ズ 但往復共三日間ノ事

同 十八日

休職教授 大村 西崖
支那へ旅行ノ處一月十六日歸朝ノ旨本日届出タリ

教授 和田 英作
大正十一年^{〔マ〕}月十八日以後佛國官設美術展覽會へ本邦美術品出陳
ニ關スル事務ニ從事ス可シ(文部省)

同 三十日

助教授 千頭 庸哉

紋勳六等授瑞寶章

同 二月四日

助教授 田邊 至

西洋畫研究ノ爲滿ニケ年間佛蘭西國伊太利國及英吉利國へ在留ヲ
命ズ(文部大臣)

同 十日

講師 關野 貞

紋從四位

同 二十一日

休職教授 大村 西崖

復職ヲ命ズ(文部省)

同 二十三日

教授 結城 林藏

學術研究ノ爲メ大阪府下へ出張ヲ命ズ 但往復共一週間ノ事

○職員動靜

○水谷〔鉄也〕教授 今般電話小石川五八九五番開通

○工藝部生徒成績展覽會 三月二十五、二十六、二十七の三日間、

本校内美術部校舍に於て、卒業製作展覽會と同時に開催の豫定にて
出品は賣約に應じ得る事とし外に記念繪葉書を發行し且つ喫茶店等
の設備を成して觀覽に供する由

近幾古美術旅行案内の發行 本校毎年四月施行の關西美術實地見學
旅行用案内書は、豫て田邊〔孝次〕助教授の手にて編纂中の處先般
脱稿したるを以て三月下旬校友會より發行すべく發賣所は本郷湯島
の日本美術學院の管

東京美術學校近事〔二一—一。T・十一・五・七〕

○第卅一回卒業證書授與式 三月廿四日午前十時本校大講堂に於て
舉行さる。式は卒業生、職員(來賓の着席するや正木校長の式辭に
依つて始められ、校長より卒業生一同の卒業證書を各科總代に授與
し了るや、一場の告辭を述べられ次いで文部大臣代理葉山文部督學

官は次の祝辭を朗讀せらる。

〔文部大臣中橋徳五郎祝辭および卒業生総代仁王浩一郎答辭省略〕

式の前夜、來賓に卒業製作の觀覽を乞ひ、式全く終へたる後記念撮影を成し、新舊卒業生は階上休憩室に於て懇親會を催したり。當日は晴天なりしかば朝野の來賓陸續として來會され、頗る盛況を呈せり。尙本年度の卒業生の科別人員併に卒業生姓名及卒業製作目録次の如し。

卒業生科別人員

科名	本科	選科	計
日本畫科	一七	二	一九
西洋畫科	三二	一	三三
彫刻科	三三	二四	五七
木彫部			
圖案科	三八	〇〇	三八
第一部			
第二部			
金工科	二	一	三
鑄造科	一	〇	一
漆工科	三	一	四
製版科	六	〇	六
臨時寫眞科	四	〇	四
圖畫師範科	一九	〇	一九
合計	一〇一	一一	一一二

卒業製作目録 (席次イロハ順)

日本畫科

砂丘	伊藤孝太郎	東京
あたゝか	市川利三郎	三重
薄暮	西保	長崎
黄昏	小川誠一	香川
日向和田	大山深藏	岡山
那須野の秋	渡部幸雄	福島
柘榴	川浪養治	佐賀
墓	川村治夫	東京
如月の頃	吉澤直貞	長野
靜寧	高田美一	香川
牧牛	高澤哲之介	富山
ほころぶ頃	常岡文龜	兵庫
鳩	根上富治	山形
池のほとり	境田道徳	宮崎
伊豆早春	坂木喜次	東京
春	廣川省三郎	新潟
月二題	樋口哲三郎	新潟
月島あたり	繁岡鑿一	東京
湖畔の秋	平田勇	東京
西洋畫科		
光に浴す	一木隲二郎	静岡
習作	早川桂太郎	北海道
坐せる女	岡本喜藏	東京
靜なる晩冬の夕に	小野藤一郎	大阪
自畫像		
本科		

春	日なた	裏通	夏	女	マンダリン	採柑の頃	南總の風景	焚火	武井氏とギター	密柑を持てる査某団仔	肩掛をして	少女	出演の前	復習	信仰	婦人像	婦人像	婦人像	落日	姉妹	編み物	靴下をはく少女	田舎の春	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
大海	渡邊	菅野	横尾	高桑千代雄	田中英之助	園部	中村	長屋	村上	窪田	熊谷	山田	山田	松尾	松本	松本	松本	小本	榎本	坂本	佐分	佐々木	三田	北爪
清藏	昇	泉	新	千代雄	之助	邦香	武平	男	三郎	照三	惣太	健一	勇	至誠	銳治	太郎	正彦	榮一	幸一	眞	松次郎	康	益雄	
山形	愛知	宮城	佐賀	北海道	兵庫	和歌山	福岡	山口	東京	大阪	山口	東京	東京	熊本	大〔阪〕	岡山	長野	和歌山	岡山	東京	静岡	東京	埼玉	
平	平	士	士	平	平	平	平	士	平	平	平	士	士	士	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平
踊女のひま	早春	三人の裸婦	海邊の小娘	池	彫刻科	塑造部	歩き止まつた女	掛けたる女	腰掛けたる女	立てる女	顔	女	習作	木彫部	宵の灯	供養	人	像柱	獅子	圖案科	第一部	各種工藝飾函(印度風)	刺繡壁掛圖案	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
三谷	光石	鈴木	鈴木	周勤	小笠原	松田	兒島	泉谷	堀江	久保田	安藤	田中	田中	田中	吉川	大内	飛田	原規一	原祐四郎	原祐四郎	原規一	原祐四郎	原祐四郎	
浩三	藤太	誠	啓二	豪	貞弘	尚之	矩一	喜一郎	尚志	吉太郎	照	林藏	三郎	三郎	政治	正	朝次郎	規一	祐四郎	祐四郎	規一	祐四郎		
香川	佐賀	岐阜	北海道	支那國	山梨	石川	岡山	石川	岩手	茨城	鹿兒島	富山	東京	東京	奈良	東京	茨城	石川	京都	京都	石川	京都		
平	士	平	平	平	士	平	平	平	士	平	士	士	士	平	平	平	平	平	士	士	士	士	士	

裝飾模様「ロココの誕生」	同	吉田 謙吉	新潟	士
裝飾畫	同	吉村 二郎	長崎	平
客室内裝飾品圖案	同	谷内 治橋	富山	平
裝飾畫(聖者の死)	同	長澤 基	群馬	士
無踏室用壁掛 <small>(壁)</small> (火焰灰)	同	齋藤芳太郎	香川	平
更紗壁掛	同	水谷 仲吉	東京	平
第二部				
パブリック・パス	本科	田口 戊光	茨城	平
東京奠都記念館	同	雪野 元吉	神奈川	平
子供の會館	同	錦木喜三郎 <small>(鈴)</small>	大阪	平
金工科				
藤花模様切透華皿	本科	山口 中	茨城	平
寶相華打出花瓶	同	山本 正麿	東京	平
打出釋迦三尊	選科	松原 繁信	香川	平
鑄造科				
供養	本科	仁王浩一郎	静岡	平
漆工科				
蒔繪隅赤形手箱	本科	飯川 隆吉	石川	平
蒔繪器局	同	西野 健一	富山	平
蒔繪折屏風	同	勝山 重典	山形	士
蒔繪厨子形小棚	選科	鍵田 博夫	静岡	平
製版科				
本科	一色 曜雄	東京	平	
同	宗像徳二郎	山口	士	

編み物	本科	山口 清一郎	岩手	平
風そよぐ濱邊	同	古屋 幸壽	山梨	平
邁進の意氣	同	清水新太郎	埼玉	平
悩みの中に青春は逝く	同	菅井 剛彦	東京	士
臨時寫眞科				
石川 要重	栃木	大友 一三	宮城	平
横山 吉秋	岡山	吉田 三郎	新潟	平
高橋 榮作	山形	武井 勝雄	群馬	平
竹谷 長松	石川	中村 正見	長野	士
山田 新吉	岐阜	矢吹 誠	福島	平
松崎 健藏	鹿児島	藤谷 庸夫	愛媛	平
浅野 秀一	新潟	齋川五郎平	徳島	平
酒井直次郎	山形	椎名 茂雄	茨城	平
久下善之丞	大分	守屋 佐市	埼玉	平
杉浦 竹治	埼玉			

○新入學生 本年度入學志望者には三月廿九日より三日間撰抜試験を施行したる結果左記の如く入學を許可せり(イロハ順)

豫備科
日本畫科

岩田覺太郎 石田理一郎 花田 實 大野 秀雄 林田 詳二 高橋 泰藏 山田 忠治 山下 慶治

大山 正三 岡田 歳一 荻原 達義 和田藤十郎 松原 宗美 藤元 惠祐

川村 俊一 香川 光廣 吉田三樹三 田岡 耕作 圖案科 池邊 義敦 石川 正己 服部 尙子 羽野 禎三

武田勘右衛門 長澤 信雄 山本 求 小堀 安雄 第一節 池邊 義敦 石川 正己 服部 尙子 羽野 禎三

荒井 浩 坂井 清 日高 健三 平岩長四郎 長安右衛門 笠松 豐二 吉江 景二 竹内 三男

西洋畫科 犬丸 順衛 猪熊玄一郎 池田幸太郎 石井 清夫 成田虎次郎 村瀨 美樹 白尾榮三郎 毛利 登

橋口 康雄 本多 治郎 大月 源二 岡田 鎌三 妹尾 壽信 鈴木 信任 鈴木 正道

荻野 映彦 荻須 高德 河内 煦 川島 昌介 高島 功 石持 甚作 千葉 一胤 中條 國男 大坪 誠爾

太刀川英次郎 高橋 弘二 高野三三男 高島 功 石持 甚作 千葉 一胤 中條 國男 大坪 誠爾

田村 義夫 瀧波 恒雄 瀧澤 健三 中西 利雄 杉山 豊桔 金工科 飯沼 定夫 富田 稔 大作 昂 神田不二男

中川規矩磨 求田 一脩 牛島 憲之 矢田清四郎 杉山 豊桔 金工科 飯沼 定夫 富田 稔 大作 昂 神田不二男

山口 長男 深井 修次 藤岡 一 藤野 正三 村上 安雄 青井 善次 佐々木政雄

小堀 四郎 近藤 啓二 青山 襄 岸上 良平 信田 六平 山本辰之助 寺崎 有作 品田 慎一

水上 信雄 白井 次郎 島野 重之 首藤 讓 鑄造科 村上 安雄 青井 善次 佐々木政雄

清水勇之進 日高 政榮 菱田 武夫 森 寅雄 鑄造科 村上 安雄 青井 善次 佐々木政雄

彫刻科 森 達雄 杉浦 俊雄

塑造部 伊東 隆二 石橋 孟 星 三郎 竹田 金一 針田 市造 小川 金重 唐澤 榮作 高橋 孝人

中田猪千二 海野亥之輔 山田 重孝 安永 良徳 上田 修壯 櫻井 清愛 臨時寫真科第一年 櫻井 清愛

安枝 馨 松山 兼政 安藤 秀吉 宮地 寅彦 岩戸 秀夫 保科 勝 玉置 辰夫 野田 松男

宮本 爲次 杉田 忠治 藪下 泰次 櫻井 一三 宮川 富造 仁保 弘三

木彫部

圖畫師範科第一年級

居井 直胤 原川 和雄 保坂 良平 吉武 正巳
 吉田 雄司 多田 銀三 竹田 信夫 瀧澤 清
 塚本 茂 中津留武夫 中野繁次郎 谷部 正
 山口 諒司 山本 俊治 松村 俊一 不破 與吉
 遠藤倫太郎 河部^阿 時彦 荒木 武彦 淺野 徹
 酒井 忠一 三好 俊一 平田 善吉 平木 愛三

○職員辭令

大正十一年三月三日

學校長 正木 直彦 教授 結城 貞松
 教授 松岡 輝夫 同 藤島 武二
 同 長原孝太郎 同 小林 萬吾
 同 朝倉 文夫 同 清水 龜藏
 同 津田 信夫 同 島田 佳矣
 同 岡田三郎助 助教授 石田 英一
 講師 大澤三之助 講師 岡田信一郎
 同 香取 秀真 同 六角注多良
 同 辻村延太郎

平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス(農商務省)

同 八日

教授 黒田 清輝

佛蘭西共和國政府ヨリ贈與シタル「コンマン・ドールエトアル・ノアル」勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス(賞勳局)

同 十一日

助教授 田邊 至
 文部省在外研究員トシテ本日東京ヲ出發シタウ^リ

同 三十一日

講師 小柴 英侍 同 加藤 成之 同 原田 義作
 依願解囑(各通)

書記 北浦 大介

本校主任收入官吏^吏書記足立芳五郎取扱ニ係ル帖簿金櫃検査ヲ命ズ

四月一日

學校長 正木 直彦

依囑製作事務ニ關シ四月二日ヨリ同六日迄愛知縣下へ出張セラル

同 四日

助教授 田邊 孝次

勤務演習ノ爲四月四日ヨリ五月一日迄歩兵第三聯隊へ召集セラル

同 七日

助教授 小林龜五郎 同 戸塚 暢夫

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ズ(文部省)

同 八日

權藤 種男

本校講師ヲ囑託ス 但圖書師範科自在畫擔任ノ事

教授 島田 佳矣 講師 鈴川 信一

同 和田 季雄

學術實地指導ノ爲京都府奈良縣滋賀縣へ出張ヲ命ズ 但往復共十七日間ノ事

書記 中澤治之助

生徒修學旅行ニ付京都府奈良縣滋賀縣へ出張ヲ命ズ 但往復共十七日間ノ事

雇 奥川 忠男

依囑製作事務ニ付神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

同 十日

教授 鎌田彌壽治

在外研究中ノ處本月六日歸朝ノ旨本日届出タリ

同 十三日

講師 矢野 道也

依願解囑

同 十七日

村田 良策

本校講師ヲ囑託ス 但英語授業擔任ノ事

○職員動靜

○鎌田〔弥寿治〕教授 文部省在外研究員として海外留學中の氏は

四月上旬歸朝東京高等工藝學校教授に任ぜらる

○小林〔万吾〕教授 先般電話開通芝八〇九五番

○小泉〔勝爾〕助教授 市外落合村上落合四二五へ轉居せらる

東京美術學校近事〔二一—二。T・十一・六・一〇〕

○職員辭令

大正十一年四月十三日

講師 山本正三郎

平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス(農商務省) 十九日

教授 黒田 清輝

同 川合 玉堂

第一回朝鮮美術審査委員會委員ヲ囑託ス(朝鮮總督府)

同 二十四日

教授 結城 林藏

平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス(農商務省)

同 二十六日

講師 岡田 起作

同 鈴木 信一

教員檢定委員會臨時委員被仰付(内閣)

同 五月二日

助教授 田邊 孝次

勤務演習ノ爲召集中ノ處本日召集解除ノ旨届出タリ

同 三日

教授 白濱 徹

助教授 波根 義三

學術實地指導ノ爲愛知三重奈良三縣及大坂府へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同 十日

教授 鎌田彌壽治

除服出仕

同 十一日

學術研究ノ爲山形縣岩手縣へ出張ヲ命ス 但シ往復共一週間ノ事
教授 津田 信夫

同 十二日

講師 成田 隆吉

依願解囑

同 十六日

教授 神木 健介

平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス(農商務省)

同 十七日

教授 鎌田彌壽治

任東京高等工藝學校教授 紋高等官四等

東京高等工藝學校教授 鎌田彌壽治

兼任東京美術學校教授 紋高等官三等

同 十八日

講師 辻村延太郎

學術研究ノ爲静岡縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

東京美術學校近事〔二一—三。T・十一・七・一〇〕

○職員辭令

大正十一年五月二十日

書記 北浦 大介

歐洲へ出張ヲ命ス(文部省)

同 二十二日

除服出仕
書記 中澤治之助

同 二十三日

講師 菅原 教造

陞紋高等官五等(内閣)

同 二十四日

教授 神矢 教親

五月二十一日歸朝ノ旨本日届出タリ

同 二十六日

書記 北浦 大介

歐洲ニ向ヒ出發ス

同 二十七日

書記 藤岡福三郎

物品會計官吏北浦大介歐洲出張中其代理ヲ命ズ

同 三十日

書記 足立芳五郎

國有財産監守者ヲ命ズ

同 六月 六日

教授 神矢 教親

在留期間ヲ大正十一年四月十五日迄延期ノ件追認ス(文部省)

同 八日

講師 山本正三郎

依願解囑

同 十日

除服出仕

教授 阪口 朧

陞敍高等官五等

教授 長原孝太郎

敍正七位(宮内省)

書記 足立芳五郎

教授 小林 萬吾

同 十五日

教授 神矢 教親

同 水谷 鐵也

任東京高等工藝學校教授(内閣)

同 十七日

教授 久米桂一郎

陞敍高等官六等

同 松岡 輝夫

歐洲出張中ノ所歸朝ス

休職教授 沼田勇次郎

同 二十七日

教授 久米桂一郎

歐洲旅行中ノ所歸朝ス

同 二十日

教授 鎌田彌壽治

同 岡田三郎助

敍從五位

講師 菅原 教造

同 和田 英作

敍從六位

敍勳四等授瑞寶章

同 白山 福松

東京美術學校近事(二二一四。T・十一・九・一〇)

同 七月十五日

東京美術學校教授兼東京女子高等師範學校教授

同 大村 西崖

○職員辭令

大正十一年六月二十六日

教授 結城 貞松

同 免兼官(内閣) 二十日

陞敍高等官四等

教授 結城 貞松

敍正六位

教授 長原孝太郎

十二日間の事

敍從六位

教授 小林 萬吾

東京美術學校近事 [二一—五。T・十一・一〇・一〇]

同 大島勝次郎

同 水谷 鐵也

○職員辭令
大正十一年八月十八日

同 松岡 輝夫

同 清水 龜藏

[敍]
敍正七位

同 廿一日

本校講師ヲ囑託ス 但圖書師範科手工授業擔任ノ事

正七位 中田 俊造

同 二十一日

教授 子爵 黒田 清輝

帝國美術院長被仰付 依願帝國美術院會員被免(内閣)

任東京高等工藝學校教授 敍高等官六等(内閣)

教授 畑 正吉

同 二十五日

在外研究中の處七月廿一日歸朝の旨本日届出たり

教授 畑 正吉

物品會計官吏北浦大介歐州出張中其代理ヲ命ズ

書記 中澤治之助

敍勳四等授瑞寶章

教授 小堀 鞆音

同 二十三日

書記 藤岡福三郎

在外研究中の處七月廿一日歸朝の旨本日届出たり

助教授 伊東 亮次

同 九月八日

右病氣ノ處八月二十日午前四時三十分死亡ノ旨遺族ヨリ届出タリ

同 八月四日

教授 島田 佳矣

京都府兵庫縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

教授 久米桂一郎

教員檢定委員會臨時委員被仰付(内閣)

同 九日

同 十四日

助教授 田邊 孝次

右大正九年九月十日休職ノ處本日ヲ以テ休職期間了セリ

教授 岡田 秀

學術研究の爲香川、大分、廣島の各縣下へ出張を命ず 但往復共

同 十一日

紋正四位

十四日

教授 高村 光雲

故藤岡福三郎妻お禰

東京美術學校書記藤岡福三郎在官中死亡ニ付月俸三ヶ月分給與

(文部省)

同 十九日

教授 和田 英作

歐洲出張中ノ所本月十六日歸朝ノ旨届出タリ

職員動靜

○小林〔万吾〕教授 若州小濱より山陰道に寫生旅行を試みられたり。

○水谷武〔彦〕助教授 府下瀧川町中里四〇一へ轉居。

○増井〔兼吉〕書記 八月十四日三男を喪はる、哀悼の意を表す。

○伊東〔亮次〕助教授 府下大井町南濱川一七八二へ轉居。

○藤岡書記の訃 本校書記藤岡福三郎氏、豫て腎臓病にて療養中の所藥石効なく、八月二十日午前四時三十分、本郷弓町の自宅にて

永眠さる、享年五十、痛嘆の至りに堪えず謹んで哀悼の意を表す。氏は明治六年埼玉縣北葛飾郡櫻田村に生れ、十八年東京本所

區東陽小學校に入り、廿九年神田專修學校理財科に學び、三十七年十月本校雇を命ぜられ、文庫掛たり 三十九年六月會計掛を命

ぜられ、爾來十年一日の如く、本校會計の職務に盡卒せらる、大正六年六月本校書記に任ぜらる 此間修學旅行に、依屬製作事業

に常に精勵せられたるに、今や莫し矣、告別式は二十二日午前、

自宅に於て執行されたり。列するもの百數十名、盛儀なりき。

東京美術學校近事〔二一—六。T・十一・十二・七〕

○職員辭令

大正十一年九月二十二日

講師 小岩 峻

同 和田 季雄

同 野口 六三

同 畑 保之

任東京美術學校助教授(文部省)

助教授 小岩 峻

漆工科蒔繪及調漆實習擔任ヲ命ズ

助教授 和田 季雄

體操及彫刻實習擔任並教務掛兼勤ヲ命ズ

助教授 野口 六三

金工科鍛金實習擔任ヲ命ズ

助教授 畑 保之

臨時寫真科實習擔任ヲ命ス

同 二十六日

教授 藤島 武二

同 結城 貞松

同 長原孝太郎

同 小林 萬吾

帝國美術院美術展覽會審查委員被仰付（内閣）
同 建島彌一郎
同 朝倉 文夫
同 北村 西望

同 三十日

在外研究中ノ處九月二十二日歸朝ノ旨届出タリ
教授 古宇田 實

上村 福幸

本校講師ヲ囑託ス 但圖書師範科ニ課スル教育學及修身授業擔任ノ事

正五位 平田 榮二

叙從四位（宮内省）

講師 久米 福衛

印刷工藝科製版及寫眞術實修授業ヲ囑託ス（東京高等工藝學校）

同 十月二日

書記 足立芳五郎

預金取扱主任官ヲ命ス

同 中澤治之助

除服出仕

同 十日

文部省在外研究員 古宇田 實

在留期間ヲ大正十一年八月十九日迄延期ノ件追認ス

同 田邊 至

獨逸國及西班牙國ヲ在留國ニ追加ス

同 十二日

鈴木 清

本校講師ヲ囑託ス 但金工科及鑄金科ニ課スル工藝製作法擔任ノ事

同 十三日

教授 津田 信夫

鑄造術及金工術研究ノ爲滿二年間亞米利加合衆國佛蘭西國及伊太

利國へ在留ヲ命ス（文部大臣）

同 十四日

教授 子爵 黒田 清輝

教育評議會委員被仰付（内閣）
（仰付）

同 十六日

教授 久米桂一郎

帝國美術院幹事被仰付（内閣）

同 二十四日

助手 塚本 閣治

本校助手ヲ免シ更ニ講師ヲ囑託ス 但圖案科圖案實習授業擔任ノ事

同 二十五日

助教授 田邊 孝次

學術研究ノ爲千葉縣栃木縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 二十八日

教授 子爵 黒田 清輝

依願社會事業調査會委員被免（内閣）

同 十一月一日

教授 森 芳太郎

學術實地指導ノ爲栃木縣へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

助教授 長口 宮吉

同 畑 保之

講師 久米 福衛

本校生徒修學旅行ニ付栃木縣へ出張ヲ命ズ 但往復共三日間ノ事

同 二日

助教授 小泉 勝爾

同 篠田十一郎

學術實地指導ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

○職員動靜

○香取〔秀治郎〕講師 十月二十九日拂曉要子夫人を喪はる 謹んで哀悼の意を表す。

東京美術學校近事 (二二一七。T・十二・一・二三)

○職員辭令

大正十一年十一月四日

教授 古宇田 實

任神戸高等工業學校兼東京美術學校教授 絨高等官三等 勅任官

ヲ以テ待遇セラル(内閣)

同 七日

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ズ 但往復五日間ノ事

講師 香取 秀眞

除服出仕

同 十三日

講師 塚本 閻治

依願解囑

教授 鎌田彌壽治

敘勳六等授瑞寶章

同 十二月一日

森田 武

東京美術學校助手ヲ命ズ 圖案科第一部勤務ヲ命ズ

講師 齋藤 佳藏

歐洲ニ於ケル裝飾美術教育ニ關スル施設及授業方法ノ調査ヲ囑託ス

同 十一日

雇 杉井錠三郎

監視ヲ命ズ

助教授 小岩 峻

除服出仕

同 十二日

監視 杉井錠三郎

右病氣ノ處本日午前三時死亡ノ旨遺族ヨリ届出タリ

○職員動靜

○津田〔信夫〕教授 文部省在外研究生として一月十八日出發。

○齋藤〔佳藏〕講師 十二月神戸出帆の北野丸にて渡歐せらる 宛名は

Via America/Herrn K. Saich/Per adreise/Per Japanischen Botshaf/Berlin/Deutschland

東京美術學校近事 〔二一八。T・十二・三・一〇〕

○職員辭令

大正十一年十二月二十五日

會計検査院書記 從七位 簡崎 謙齋

任東京美術學校書記

書記 簡崎 謙齋

會計掛ヲ命ズ

二十八日

教授 結城 林藏

勅任官ヲ以テ待遇セラル (内閣)

大正十二年一月九日

書記 中澤治之助

任濱松高等工業學校書記

同 十日

助教授 小泉 勝爾

除服出任

書記 簡崎 謙齋

物品會計官吏北浦大介歐洲出張中其代理ヲ命ズ

同 十一日

東京美術學校雇ヲ命ズ 會計掛ヲ命ズ

白木 登一

依願免本官

同 十八日

文部省在外研究員トシテ東京出發海外ニ向ヘリ

教授 津田 信夫

同 二十日

教授 大島勝次郎

鑄造科主任ヲ命ズ

助教授 坂口 肫

鑄造科理事ヲ命ズ

教授 津田 信夫

鑄造科主任並理事ヲ免ズ

講師 杉田 精二

圖案科第一部ニ課スル鑄造製作法實習兼擔ヲ命ズ

同 二十二日

講師 辻村延太郎

學術研究ノ爲福井縣石川縣へ出張ヲ命ズ

同 二十五日

但往復共一週間ノ事

書記 足立芳五郎

同 簡崎 謙齋

千葉縣へ出張ヲ命ズ 但往復共一日間ノ事

歐洲出張ヨリ本月二十日歸朝ノ旨届出タリ
書記 北浦 大介

同 二十七日

書記 筒崎 謙齋

物品會計官吏代理ヲ免ズ

同 三十日

學校長 正木 直彦

敘從三位

元教授 結城 林藏

敘正五位 特旨ヲ以テ位一級被進(宮内省)

同 三十一日

五十嵐忠六

東京美術學校雇ヲ命ズ 監視ヲ命ズ

巡視 渡部千次郎

東京美術學校雇ヲ命ズ 監視補助ヲ命ズ

○職員動靜

○正木〔直彦〕校長 電話番号九五三は牛込九五三番に變更。

○大村〔西崖〕教授 同じく牛込二五四三番に變更。

○島田〔佳矣〕教授 今般電話高輪四五七〇番架設。

○渡邊〔啓三〕教授 今般電話小石川六八三六番架設。

関連事項

① 田辺至の在外研究

大正十一年二月四日、西洋画科助教田辺至は文部省より滿二年

間のフランス、イタリア、イギリスにおける在外研究を命ぜられた。彼は明治十九年十二月二十一日東京市神田区猿樂町三丁目に生まれ、明治四十三年本校西洋画科を卒業。同四十四年本校雇となり、大正四年五月図画師範科西洋画授業担任、同八年四月助教(担任は同前)、同九年四月図案科第一、第二部西洋画授業兼任(同十年一月図画教員志望者の西洋画授業兼任に変更)となった。

留学に出発したのは大正十一年三月十一日で、追って同年十月ドイツ、スペインが在留国に加えられた。『東京美術学校校友会月報』第二十一巻第四号に掲載されている彼の書簡の中には、

私の今居ります宿が、昔山本芳翠氏や合田〔清〕先生の寄寓せられた家だそうで、黒田〔清輝〕先生や久米〔桂一郎〕先生を宿の主婦が知つて居ります。

とあり、編者はその住所を 4 Rue de la Suintinie Versaille Set O France と紹介してゐる。

田辺の「美術遍路余談」(大正十三年十一月十一、十五日『報知新聞』連載。同年九月十五日執筆)はフランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スペインにおける美術見学の印象を記したものであるが、特に版画に関して多く記述している。それによると彼は「パリに來て、大部分の畫家が、版畫に興味を持ち、容易くこれを取扱つてゐた事實にふれて、浮世繪を通じて版畫の國とまでいはれてゐる現在の我々に、この方面の作品の乏しいことを感じ」させられて、帰国後はさらに版画に力を注ぐべく、意欲的に西歐の版画を研究した模様で